

令和 2 (2020) 年度の堅果類 (ドングリ) の豊凶とクマの出没について

R2 (2020) 年 9 月 自然環境課

1 堅果類豊凶調査の概要

8 月から 9 月にかけて、林業センターが調査を実施
調査地は県内 4 地域 (県北、高原、奥日光、県南)

2 今年度の結果 (カッコ内は前年度の結果)

ミズナラ：県北・高原地域が凶作 (並作)、奥日光が不作 (凶作)、県南地域が凶作 (凶作)
コナラ：県北・高原地域が凶作 (不作)、県南地域が不作 (並作)

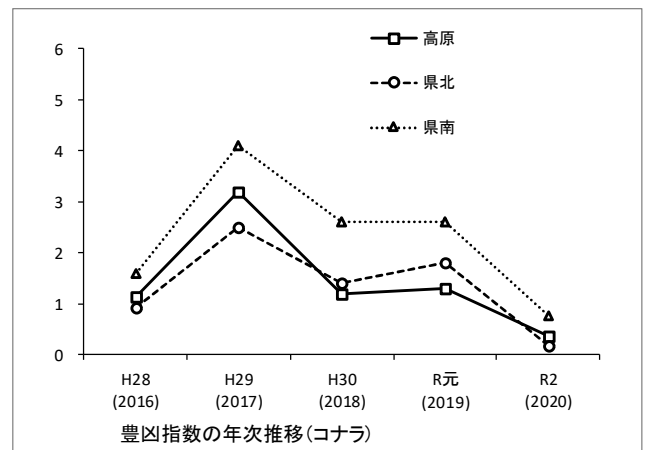
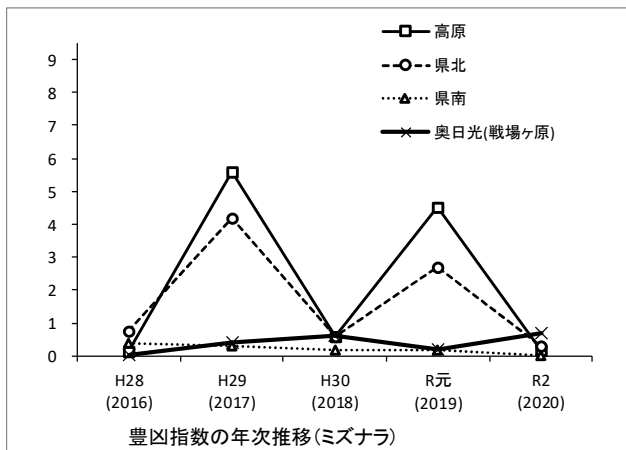
3 クマの出没について

堅果類の豊凶とクマの捕獲数の関係からみると、ミズナラ及びコナラが「凶作又は不作」の年は、クマの捕獲が晩秋 (10 月、11 月) まで続く傾向がある。令和元 (2019) 年度の捕獲数は全体としては多かったものの、9 月以降の捕獲は少なかった。これは、堅果類の結実が比較的良好であったことが影響していると考えられる。

令和 2 (2019) 年度の堅果類は、ミズナラが県北・高原・県南地域で「凶作」、奥日光で不作となり、加えてコナラも県北・高原地域で「凶作」、県南地域で「不作」であった。

今年は平年よりも比較的早い時期からクマの出没があり既に 3 件の人身事故が発生した。クマの出没はこれまでの傾向から晩秋まで続くことが予想されるため、収穫予定の無い柿や栗などの誘引物の除去や人家周辺のヤブの刈払などクマを里地に近づけない対策が必要である。

また、クマが堅果類を求めて山林を広範囲に移動することが予想されるため、もみじ狩りや登山、ハイキングなどで山林等に入る場合には、鈴やラジオ等の音により人の存在をクマに知らせ不慮の遭遇を避ける対策が必要である、



※豊凶指数：枝先 50 cm の実の数